

授業科目名	環境保健医学Ⅱ (環境予防医学)	担当教員	日程表に記載
開講年次・学期	3年前期	必修/選択	必修
開講形態	講義	時間数/単位数	2単位
<b>学習目標</b>			
基礎医学及び臨床医学で臓器別、機能別に学習してきた健康問題を、一人の人間が様々な生活環境とライフスタイルの中で経験する健康問題として総合的にみる視点を習得する。その視点のもとに、臨床現場でのプライマリヘルスケア実践に必要な予防医学の考え方や方法論を学習する。			
<b>ディプロマポリシーとの関連</b>			
<知識を統合し活用する能力> 基礎医学、社会医学及び臨床医学で習得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができる。			
<b>学修成果（到達目標）</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予防医学の視点を習得し、予防医学の重要性を説明できる。</li> <li>2. 産業医の職務と、作業管理・作業環境管理・健康管理について説明できる。</li> <li>3. 労働環境の特徴を健康問題と関連づけて理解し、労働災害や職業病の現状を概説できる。</li> <li>4. 産業現場で起こる中毒や職業がんについて理解し、その予防策が概説できる。</li> <li>5. 日常生活における環境起因性疾患について説明できる。</li> <li>6. 空気・水・物理的環境要因等による生体に及ぼす影響について概説できる。</li> <li>7. マラリアやその他の原虫症の病態とその対応が説明できる。</li> <li>8. 寄生虫症や病害動物による疾病を理解し、プライマリケアにおける対応ができる。</li> <li>9. コミュニティヘルスケアの立場から、疾病の予防について説明できる。</li> <li>10. 地域保健医療の実践を理解するとともに、それに必要な対応ができる。</li> </ol>			
<b>キーワード</b>			
予防医学、産業衛生、環境保健、医動物学、医療安全			
<b>授業の進め方</b>			
講義を基本とする。			
<b>評価方法</b>			
授業時間内のWebExのチャットへの学籍番号・氏名の記入及び授業後の小テストへの回答を出席として取り扱う。小テストと期末試験（対面）の点数を総合して評価する。			
<b>合否基準</b>			
総合評価60点以上を合格とする。			
<b>教科書・参考書</b>			
【教科書】 特に定めない 【参考図書】 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向、厚生労働統計協会 B.ラマツツーニ著：働く人々の病気、北海道大学図書刊行会 和田孜他編：産業医学マニュアル、南山堂 福見秀雄著：社会の中の感染症、日本評論社 Mary Dobson著 小林力訳：Disease、医学書院 厚生労働省労働衛生課監修：産業医の職務Q & A 第9版、産業医学振興財団 吉田幸雄，有菌直樹 著：図説人体寄生虫学 第8版、南山堂			

## オフィスアワー

随時受け付けます。電話、メールで照会してください。

環境保健医学講座 環境予防医学ユニット(2169)

nagoshi@med.shimane-u.ac.jp

## コア・カリとの関連

- A-4-1) コミュニケーション
- A-4-2) 患者と医師の関係
- A-5 チーム医療の実践
- A-5-1) 患者中心のチーム医療
- A-6 医療の質と安全の管理
- A-6-1) 安全性の確保
- A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防
- A-6-3) 医療従事者の健康と安全
- A-7-1) 地域医療への貢献
- A-7-2) 国際医療への貢献
- A-8-1) 医学研究への志向の涵養
- B-1-6) 社会・環境と健康
- B-4-1) 医師に求められる社会性